第１回　第９期小平市農のあるまちづくり推進会議議事録

１　開催日時　令和４年４月２２日（金）午後３時００分～午後５時００分

２　場　　所　小平市役所　６階　６０１会議室

３　出 席 者　委　員：出席９名、欠席３名、
　　事務局：出席４名

４　内　　容
（１）副市長あいさつ
（２）委員の紹介
　各委員より自己紹介。
（３）会長・副会長の選出
　→会長：角田委員（東京都農業会議）
　副会長：小野委員（小平市農業委員会）
（４）これまでの活動実績と今後の計画について
　→事務局より、資料を元に説明。
　今期の活動の方向性について事務局より提案。
　① 小平産農産物のブランド化、異業種連携による６次産業化の推進
　・農産物の生産から販売、消費されるまでの一体的な取り組み
　・消費者のニーズに合わせた農業生産、加工、PR をすすめた地産地消の促進
　② 農・商・消費者の連携による地産地消のさらなる推進
　・市内飲食店での地場産農産物の利用推進
　・地産地消に向けた PR、イベント活動の展開
　⇒提案を元に協議。

以下、協議内容
【今後の活動の方向性について】
　事務局からは、小平産農産物のブランド化、異業種連携による６次産業化の推進、地産地消の推進を提案した。事務局の提案に関する意見のほか、新しい提案を募った。

【前期テーマ　加工品のブランド化に関する意見】
・　前期は加工品ブランド化に向けて活動したが、実現は難しそうだ。新しい事業を検討するよりも、まずは評判のいい既存の事業を継続するための取組を優先すべきではないか。
・　農産物の加工品を売り出すには、ロット数と売価の問題がある。

【ブランド化に関する意見】

- ブランド化する農産物は生産量が多いだけではなく、消費者が求めているものでないと意味がない。旬の食材をやみくもに売り出すのではなく、マーケティングをした上で決めたほうがいいのではないか。
- 農家は一軒一軒スタイルが違うので、一つの作物を決めてブランド化するのではなく、小平農産物全てを応援するような雰囲気づくりが理想ではないか。
- 小平産農産物全てをアピールするという意味では、「畑からまっしぐら」や「まっしぐら食堂」などが小平らしさをアピールできるのではないか。
- 小平市の学校給食は、３年連続で地場産野菜導入率３０％を超えていて、ブランドとして確立されている。このことをＰＲするというテーマもあるのではないだろうか。既に行っているＰＲ方法のひとつが「まっしぐら食堂」である。給食と市役所食堂が同日に地場産農作物のメニューを提供していることを、もっとアピールできるのでは。
- 消費者にＰＲし理解を促すという意味でブランド化が大切なのだと思う。だからといって、新しいものをこれから作り出すというのではなく、これまで培ってきたものをアピールする手法としてブランドを使っていくのはどうだろうか。

【既存事業の継続、発展に関する意見】

- エダマメウィークやまちあるきは、新鮮な野菜を身近に手に入れられるという小平農業の特徴や、自然環境など、小平らしさを活かしていて良いと思う。
- 親子で参加できる収穫体験も喜ばれるのではないだろうか。毎年、初めての人が参加できるよう、工夫して参加者を募るのも良いと思う。
- まちあるきは受け入れに否定的な農家もいるが、人気がある。新しいルートを作ってみて、観光まちづくり協会に提言するのも一つではないだろうか。

【飲食店との連携に関する意見】

- 飲食業は厳しい状況の中で、安心安全な食材を使いたい、地元の野菜を使いたいという思いはあるのだが、具体的に何を作っているのかを把握できていない。いつ、どんな品目を仕入れられるのかが分からないため、結局いつもの業者から仕入れることになってしまうというのが現状である。
- 多品目栽培では、ひとつの品目を年間継続して出荷し続けるのが難しい。季節に合わせてメニューを変えてもらえれば、まだ可能性がある。
- 出荷できる時期を予測して発信できるといいと思う。
- 生育状況を知らせることはできるが、いつ収穫できるか予測するのは難しい。
- 生育状況を発信したとしても、直売で売り切れれば、飲食店に出荷する分を確保できない。
- 収穫量が多すぎる時期は捨ててしまっている。買い取ってもらえる飲食店とマッチングできるとありがたい。
- 出荷しきれない野菜を冷凍保存して販売するのは、保管場所と莫大な経費が掛かるだけで利益が出ない。

・　昔は小回りの利く惣菜店があり、出荷しきれない分を買い取ってくれた。最近はそのような店がなくなってしまった。

【その他の意見】
・　既存の事業ではなく、新しいことを始めてみたい。養蜂に興味がある。
・　蜂は動物なので、病気、外敵、餌やりなどが必要で手間も経費もかかる。分担して管理できるものではない。

⇒生産者には様々な苦労があることが分かった。小平の農家のことを知ってもらい、旬の時期に新鮮な農産物を食べようというアピールがいいのではないかと感じた。
次回、テーマを絞り込んだうえで方向性を検討する。

５　次回開催（第２回）
　　７月２６日（火）　午後３時から　６０１会議室